

神奈川県立麻生支援学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	神奈川県立麻生支援学校における学校運営協議会		
開催日時	令和6年5月28日(火)		
開催場所	神奈川県立麻生支援学校会議室及びオンラインで繋ぐ各会場		
(役職名) 出席者	(会長) 佐藤委員、(副会長) 岡本委員、久保田委員、谷委員、山口委員、石垣委員、小林委員、伊藤委員、山崎委員 <学校職員> (副校長) 山岸、(教頭) 原島、石上、(事務長) 江藤、(総括教諭) 宮澤、風間、杉本、土肥、堀井、栗澤、小川、鈴木		
欠席者	品川委員		
次回開催予定日	令和6年10月29日(火) 予定		
問合せ先	所属名：麻生支援学校、担当者名：原島 典子 電話番号：044-980-4855 ファックス番号：044-986-2517		
下欄に掲載するもの	・ 議事録	議事概要とした理由	
会議経過	<p>1 開会</p> <p>2 挨拶 (麻生支援学校 山崎校長)</p> <p>3 委員自己紹介 名簿順に紹介・挨拶</p> <p>4 学校職員自己紹介 名簿順に挨拶</p> <p>5 会長及び副会長の選任 会長：佐藤委員 副会長：岡本委員</p> <p>6 <学校評価部会> (1) 山岸副校長より資料に沿って説明。2024年から2027年までの4年間における「グランドデザイン」と「学校教育計画」の設定について。これらに基づき、各教育課程や学校運営組織を組み立てていく。 「令和6年度の学校目標」において、視点4に取り組むにあたっては、地域との連携を大切にしながら社会とかかわる力を育てていきたいと考えている。視点5については、学校設置部会としてグループ別に疑義いただく内容として、「①児童・生徒への丁寧なかかわりのスタンダードについて」と、「②災害時にスクールバスを運行していた場合の安全確保」があることを説明。</p> <p>(2) (1) について御意見・御質問 ・ 特になし。学校教育計画等について承認</p> <p>7 <切れ目ない支援部会> (1) 「つながるあさおプロジェクト」について総括教諭より説明。学校として進めたいことや協力していただきたいことに視点をあてたことを補足。また</p>		

地域等との協働において、継続していくことも大切であるが、取り組んでいくことを発信する方法について助言をいただきたい旨を依頼。

(2) 意見交換 (○委員、●学校関係者)

○児童・生徒と保護者の心の声を私たち支援者がどう把握できるかがとても大事。アンケートの項目において、いくつかは生声をとれるようにしてもよい(テキストマインド)。ぜひ分析まで考えて、視覚化ができるものを検討していただきたい。

肯定的な評価も聞きながら有効なアンケートを展開していただきたい。

●学校評価に係るアンケートについては、保護者がピンとくるような質問ができていないかもしれない。工夫しないと保護者も答えられない。「こういう風に聞かかれるといい」など、ご意見など部会で頂けるとありがたい。生声については、直接書いてもらえる欄を作りたい。

○「発信」というキーワードが多かった。

①今あることを定着して発信するということはとても良い。発信することで外部から様々な提供がある。

②保護者を巻き込んだ人権の部分(視点2)。SNSや性教育について。保護者にとってのプラスの部分について何かあるものか会長に聞きたい。

○スマホについては興味深く感じている。性教育については、家族の中できちんと教えられていない。周囲でも高等部よりもその後のほうが難しい、大事なことであると考えている。

●保護者の方の参考になるような研修になるよう企画していきたい。

○(視点5) 下校時、放課後等デイサービスが多く利用されているが、たくさん集まっている状況下で災害が起こったらどうなのか。

災害時の対応について話を聞くと事業所によっても等はバラバラ。学校で基本的なところを出してもらって事業所に提示してもらえないものか。

●のちほどの部会で協議。

○3.11 危機管理担当。子どもたちはそのまま返した。帰宅困難者。あの時はこの2点が教訓。そのあと考えられたのは、「安全が確認できるまではその場にいきましょう」がスタンダード。学校においては、保護者が迎え。災害発生時はその場での安全を確認してできるだけそこにいてかかるべき人に引き継ぐ。

災害は、「自助・共助・公助」。自分のことは自分で。

SBについて、人工呼吸器のバッテリーは自分で用意。そのあとはメーカーが配送。逆に地域が置いておいて…というのはいろいろな種類があるので無理。事前の準備で何が協力できて何が足りないかというのをよく話し合ってどこまで自助できるのか、よく話し合うことが防災の基本。アンケートについては、困りごとについてばかりだと防御反応が出てしまう。楽しいことも。押し付け合いにならないように。自分たちで何ができるか、どういったことが一緒にできるか考えられる仕組みを考えていけるとよい。

●設置部会でも協議していきたい。

8 〈学校設置部会〉

①スクールバス地域救援部会

★スクールバスが走行している沿線の店舗や事業の方々に、交通がストップしたときに応援いただきたいことを知ってもらうにはどのような方法があるか。

・学校が走行ルートを地域に知らせることで現場に立ちあうなどできることがある。

・ルートをマップ等で可視化し地域に知らせる。区ごとにルートを作成し、災害ステーションとしてのガソリンスタンドやコンビニを記し町内会に配布して知ってもらう。

- ・大型バスが止められる駐車上にマークやシンボルを掲示してもらい、発災時に大型バスを停めることができることを地域に知らせる。
- ・緊急対応を事前に想定する。地域の協力者をあらかじめ探しておく。
- ・電話以外の連絡手段を考えておく。無線など。

②ていねいな関わりのスタンダード

★それぞれの立場で保護者アンケートの取り方についてご意見を伺いたい。

- ・保護者の目線に立つことが大事。
- ・児童生徒が楽しく通えているのかを聞くことが大事。
- ・アンケートのゴールは、保護者の意見を取り入れてスタンダードを一緒に作ること。項目や内容についての意見をいただくことも大事。
- ・保護者がイメージしやすい文章にすることが大事。
- ・アンケートの案が決まったら、事前アンケートをPTA 役員で回答してみても意見を募ってみては。

9 会長の言葉

課題が的確にとらえられていてその場で何をピンポイントで話していくのかとても分かりやすかった。その課題とグラウンドデザインとの関係性が整理されて提示されたのがわかりやすかった。その課題を解決するための道筋が明確に示されていた。この学校運営協議会の存在価値を感じた第1回であった。

10 校長の言葉

昨年度までは学校評価部会である「切れ目ない支援部会」中心で、学校の取り組みに対して評価をいただいたりご意見をいただいたりした。今年度から本来あるべき学校運営協議会（コミュニティースクール）の存在意義を支点に置きながら新たに2つの学校設置部会を立ち上げた。

それぞれの各委員の専門性ある立場から自分は何を話せばよいか、事前に資料をお渡しさせていただいた中で、協議会のところからご意見をいただいていた。

今回は10月。学校が進めたところに対する評価をいただくことになる。次にどう分析するか。どう次年度に活かしていくか。ご意見いただけるのかを期待している。学校運営協議会は年3回。この場だけではなかなか進まないこともある。昨年度、この1回目のところ投げかけたところ、虹ヶ丘のこども文化センターにて、「校内実習で掃除に来てくれないか」など、この期間で進めることができたこともあった。ぜひ今年度も〈学校設置部会〉中で、「実はこんなことを考えている」、「こんな風にしたらいいと思う」など気が付いたことがあればぜひお伝えしていただき、進めていきたい。

11 閉会

以上